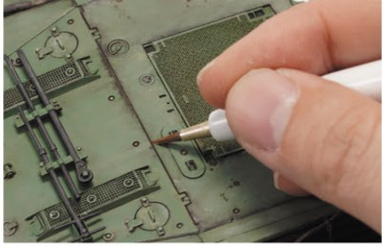


Essential knowledge and skills of using

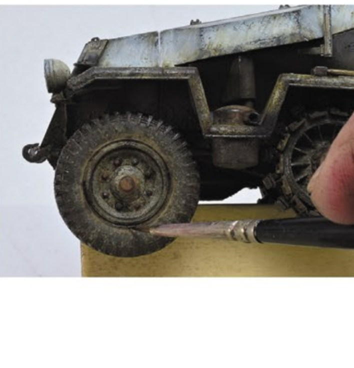
Armour Modelling

大日本絵画

Mr.WEATHERING COLOR

知っておきたい

Mr.ウェザリングカラーの使いかた



Essential knowledge and skills of using

Mr.WEATHERING COLOR

知っておきたい

Mr.ウェザリングカラーの使いかた

CONTENTS

008 CHAPTER_1 》
ウェザリングマテリアル見本帖

010 Mr. ウェザリングカラー
018 フィルタ・リキッド
022 Mr. ウェザリングペースト
026 八雲 <YAKUMO> カラーセット

034 CHAPTER_2 》
水性ウェザリングペイント

036 水性ウェザリングペイントでの土埃、泥汚れ
044 水性ウェザリングペイントでの冬季迷彩、泥汚れ

047 CHAPTER_3 》
Mr. ウェザリングカラー

054 Mr. ウェザリングカラーでのスミ入れ、ウォッシング
062 Mr. ウェザリングカラーでの混色、埃汚れ
070 Mr. ウェザリングカラーでのサビ表現

076 CHAPTER_4 》
フィルタ・リキッド

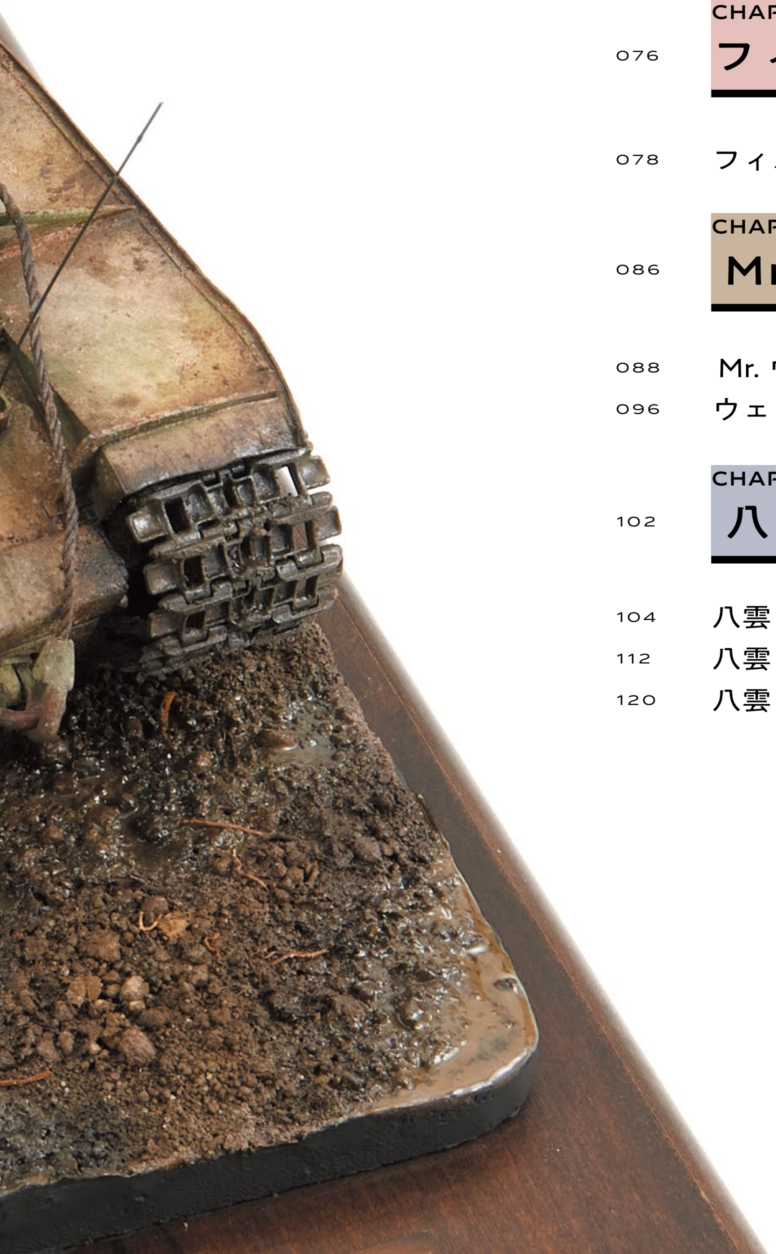
078 フィルタ・リキッドの使いかた

086 CHAPTER_5 》
Mr. ウェザリングペースト

088 Mr. ウェザリングペーストでの泥汚れ
096 ウェットクリアーの使いかた

102 CHAPTER_6 》
八雲〈YAKUMO〉カラーセット

104 八雲 WWII ドイツ軍 西部戦線用の使いかた
112 八雲 WWII ドイツ軍 東部戦線用の使いかた
120 八雲 WWII ドイツ アフリカ軍団用の使いかた



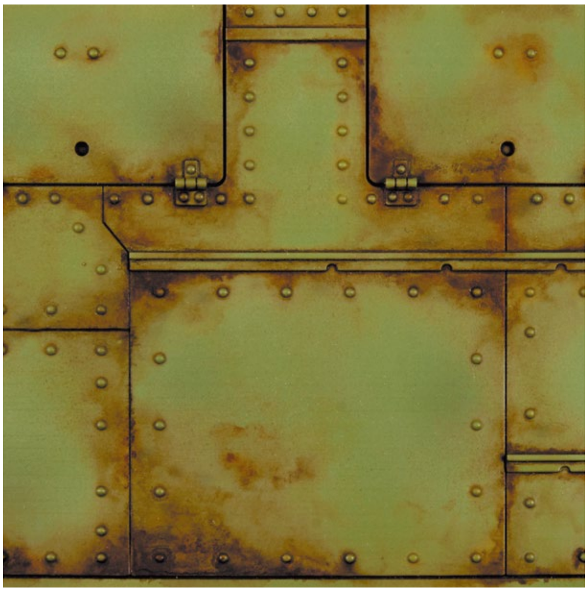
Weathering material sample

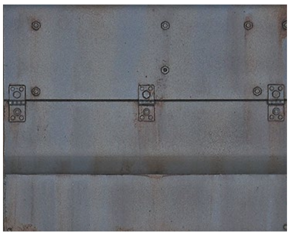
Stain Brown

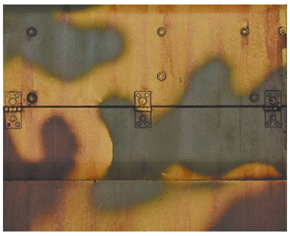
▶▶ ステインブラウン

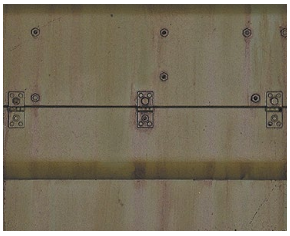
WC03

古いサビ表現に適した色味に調色されているが、暗いサンド色のフィルターとしても有用。チッピングした箇所からのサビ垂れとしても使いやすいが、ボルトなどからうっすらと滲み出たサビとしても効果的。使い過ぎると廃車のようになってしまうが、あえてそういう表現にするには最適な一本だ。







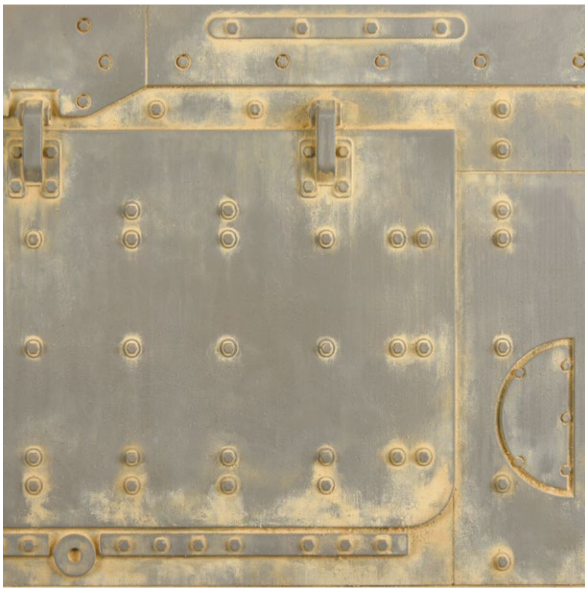


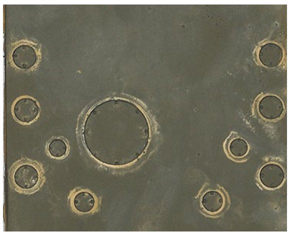
Sandy Wash

▶▶ サンディウォッシュ

WC04

明度が高く黄色みが強い埃表現に適した色。比較的明るい車体色から暗色にも良く映える。塗料が完全乾燥したあと、うっすらと残る粉っぽい様子がより一層埃汚れのリアルさを演出してくれる。全体にフィルターのように塗るとやや白っぽくなり過ぎるため、フィルタリング的な使い方には適さない。



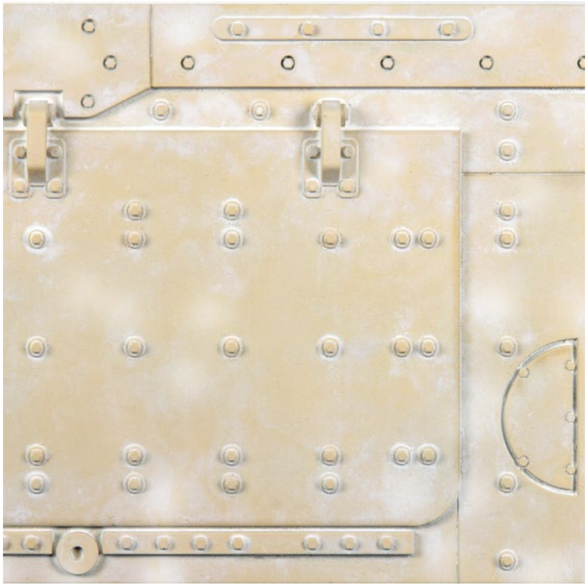


Multi White

▸▸ マルチホワイト

WC05

ほかの色の明度を上げるための調色用にラインナップされているが、写真のような冬季迷彩のような活用法もいいだろう。乾燥時間が長いのもウェザリングカラーの特徴。そんな特徴を活かし、じっくりと冬季迷彩の塩梅を調整しながら塗れるのはウェザリングカラーならではと言えるだろう。

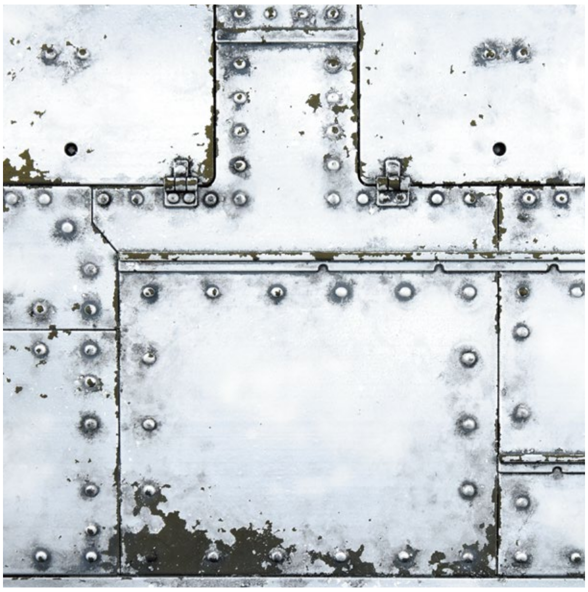


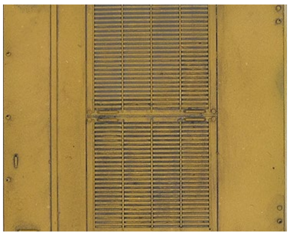
Mutli Gray

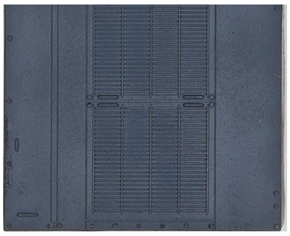
▸▸ マルチグレー

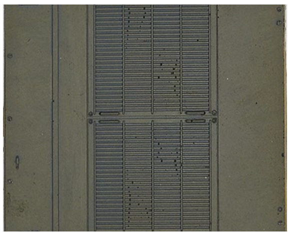
WC06

比較的明るい車体色のスミ入れに適しているが、ロービジ塗装の航空機のスミ入れ、汚しにも有用。マルチブラックなどと同様に彩度のない色味なので、使い過ぎると全体がくすんでしまう場合がある。また、混色に用いて他の塗料の表情に変化をつけるのにも効果を発揮する。









TOOL COLUMN

Mr.ウェザリングカラーは埃色の幅が広い

▶埃汚れはウェザリングに欠かせない要素だ。そんな埃のためのラインナップが豊富なのもMr.ウェザリングカラーの特徴である。埃の明暗や地域ごとの色合いによって使い分けたり、複数色を用いて濃淡をつけるのもいいだろう。また、塗料の濃度で表情に変化をつけ、埃汚れの度合いをコントロールすることもできる。

Essential knowledge and skills of using Mr.Weathering Color

スミ入れ（ピンウォッシュ）、褪色表現

まずはディテールを際立たせるピンウォッシュ。基本的な使い方のひとつだが、車種ごとに少し工夫をしてみよう。また、ウェザリングカラーを用いたドッティングでの褪色表現の方法も紹介していく。

01

▲ウェザリングカラーの効果を楽しむために、基本塗装は瓶生の塗料でベタ塗りしている。部分塗装を終え、マーキングを貼り付けたあと、半光沢のクリアーで全体をコートしておく。

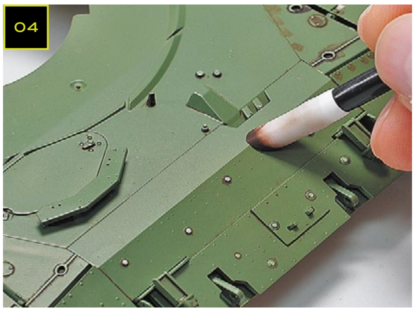
02

▲ウェザリングカラーは単色でのスミ入れにも最適だが、今回は調色した塗料を使用。グランドブラウンに、基本色に対して補色となるグレーズレッドを加えている。拭き取りで滲んだ部分にも陰色のような効果が残る。

03

▲塗料は瓶の底の沈殿した顔料の濃い部分を使用。じゃぶじゃぶと全体に塗料を乗せてウォッシングするのではなく、細い筆でピンポイントに塗料を塗り、余計なところに塗料が染み込みすぎないように配慮しよう。

04



▲塗布後10分ほどしてから、フィニッシュマスターなどで拭き取る。下地が半光沢のため比較的きれいに拭き取りやすい。しかし、このままでは褪色表現は作業を進めにくいため、再度全体をツヤ消しにしておく。

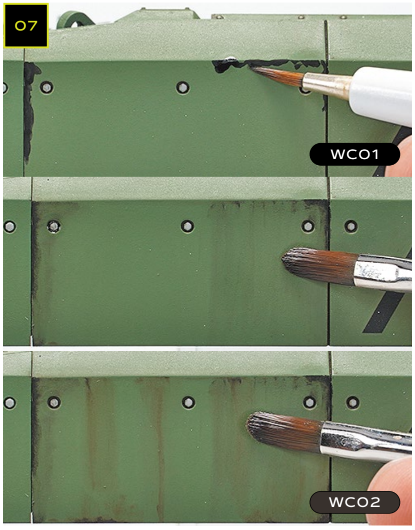
05

▲ツヤ調整には水性塗料のツヤ消しクリアーを使用。ラッカー系のツヤ消しよりも、塗面への塗料の残り具合いが好みのためこちらを選択している。吹きつけすぎて白化しないように注意する。

06

▲褪色表現は油彩などで行われるドッティングの要領で作業するが、ここでは青や黄色といった彩度の高い塗料は使用しない。もっとも明度の高い色はマルチホワイトではなく、ホワイトダストを選択している。

07



◀まずはパーツの境界部分や角となる箇所に、いちばん暗い色のマルチブラックを置く。下地がツヤ消しなので、塗料を多く置きすぎない。

◀乾燥を5分程度待ち、ごく少量のうすめ液を含ませた筆で塗料をぼかしていく。拭き取るのではなく、縦方向にやさしく塗料を引き伸ばしていく。

◀続いてグランドブラウンも同様に塗り重ねる。この2色はどちらも塗りすぎると模型が暗くなるので注意。

08

◀残りの3色はバランスを見ながら同時に進める。とくにホワイトダストはほかの色に比べて下地に色が残りやすく、ほんの少量で大きな効果を得ることができる。

◀全体の雰囲気を見ながら拭き取りを行ない仕上げる。何度か行きつ戻りつつを繰り返していく。

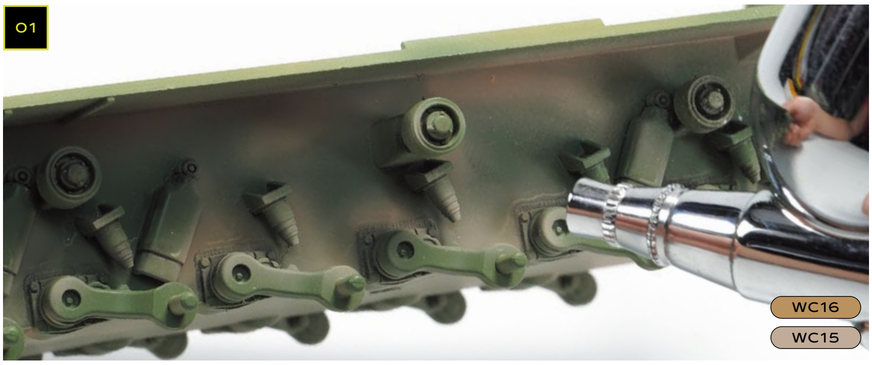
◀褪色表現の完了した状態。現用車両のように面の広い単色塗装の車両では、褪色表現を行ない情報量を増やすと大きく印象が変化する。

Mr.ウェザリングカラー ■WC01 マルチブラック ■WC02 グランドブラウン ■WC03 ステインブラウン ■WC04 サンディウオッシュ □WC05 マルチホワイト ■WC06 マルチグレー ■WC07 グレイッシュブラウン ■WC08 ラストオレンジ ■WC14 ホワイトダスト ■WC15 ライトグレイッシュ ■WC16 オーカーソイル ■WC17 マットアンバー ■WC18 シェイドブラウン

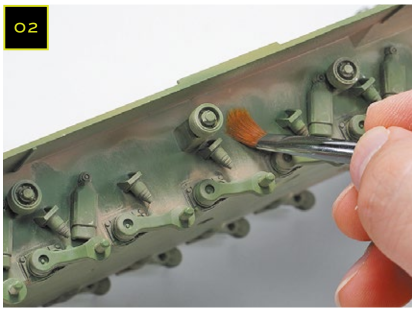
Essential knowledge and skills of using Mr.Weathering Color

エアブラシと筆を併用した埃汚れ

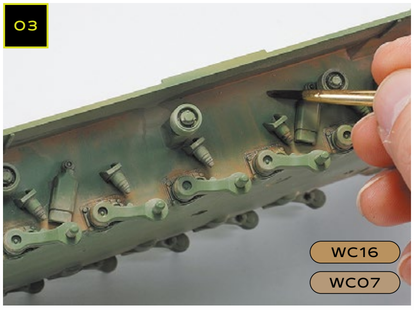
足周りのようにハードな埃汚れを施す箇所ではエアブラシでの塗装を行なうと効率がグッと上がる。もちろんさらに筆で加筆しながら、深みのある埃汚れを施していこう。



▲ライトグレイッシュとオーカーソイルを3:1で混色したものを、エアブラシで塗布していく。希釈は専用うすめ液で通常の塗料と同じ感覚で行なっている。入り隅や奥まった部分にやや強めのエア圧で吹き付ける。



▲塗布後、約30分程度の時間をあけてから少量のうすめ液を含ませた筆で境界をぼかしていく。筆は上から下のストロークを意識する。拭き取りすぎたら再度細吹きで塗り足し、微調整していく。



▲拭き取りで調整が終わったら約1日程度乾燥時間を置く。次に、エアーブラシで塗装した部分を目安にグレイッシュブラウンとオーカーソイルの混色を筆で塗り足す。

▲ストレーキングのみで終わると質感に乏しくなるのでさらに粒子状の埃汚れも追加する。前工程と同じ塗料をスパッタリングし、テクスチャーをつけていく。

▲湿った部分も追加しさらに表情を豊かにしていく。湿り気にはステインブラウンとグレイッシュブラウンにウェットクリアーを少量加えたものを塗り重ねる。

▲足周りが完了した状態。ウェザリングカラーのみでも充分豊かな表情で仕上げることができる。

◀排気部分はマルチブラックをエアブラシで塗装。ウェザリングカラーで行なうと失敗のリカバリーが容易にできる。気に入らなければすぐに拭き取ればいい。

吹き付け圧の差による表情の違い

▶ハンドピースの口径にも左右されるが、ウェザリングカラーはうすめの濃度でないとコントロールしにくい。そのため希釈濃度で塗装の飛沫を調整するのはむずかしいだろう。しかし、吹き付けるエア圧を調整すれば飛沫の表情に変化がつけられる。上写真は高圧、下写真は低圧での吹き付けの様子だ。低圧で吹き付ければ、スパッタリングのような効果を得ることもできる。

排気管の汚し

ここではセットDの標準セットを使用し、ベーシックなサビ表現の手順を確認していく。この手順を応用すれば、他の車両の排気管でも活用できる手法だ。

▲サビ色に濃淡の変化を付ける目的で、まず排気管を水性ホビーカラーのホワイトで塗装。排気管のウェザリングの下地として塗っている。

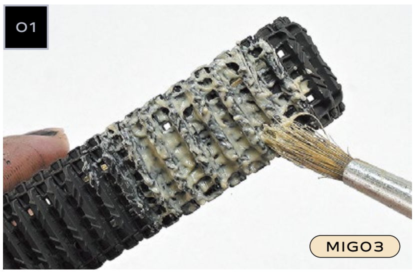
▲その上からスポンジや筆でサビ色を暗くしたい部分にMIG15を塗る。この上に色を重ねることを考慮して意図的にコントラストをきつめに付けておく。

▲希釈したMIG16を塗る。このとき注意するのは下地の色が透けるようにうすく塗り、様子を見ながら塗り重ねていき、イメージする色になったら止める。

▲Mr.ウェザリングカラーのマルチブラックで煤汚れを入れて仕上げる。下地の白と暗いチッピング、MIG16のラストの透過性を活かしたサビ表現だ。

足周りの汚し

八雲は、塗料系、ペースト系、粉末系の3種類のウェザリング素材が、戦線別に適宜選ばれてセットになっている。今回の西部戦線セットにはピグメントとペーストが入っており、ウェザリングの質感表現の幅を広げることができるのだ。



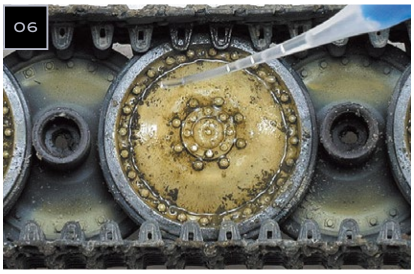
▲ペーストを叩くようにして塗り、履帯の凹部に溜まった土を再現する。ペーストだけでは単調なのでピグメントを使ってさらに土の粒子感を出していく。

▲ペーストの乾燥前にピグメントをまぶす。ペーストを接着剤の代わりにし、粉を定着させる。より暗い色のMIG14アース＆グレイムで変化を付けるのも有効だ。

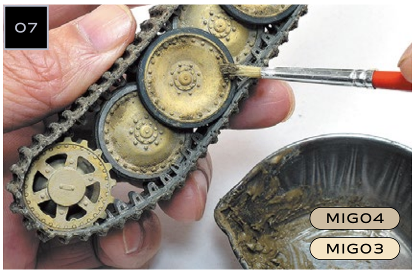
▲うすめに希釈した塗料を筆に少量含ませてから弾き、飛沫を付けて汚れに幅を持たせる。飛沫の量と濃さで色味を調整することができる。

▲ボルトやハブキャップにピンウォッシュを施す。この後の土汚れでほぼ隠れてしまうことを想定して暗めの色でハッキリした陰を入れることを意識する。

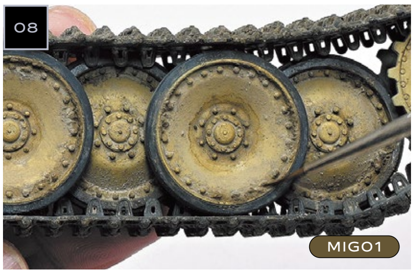
▲転輪の土汚れを再現するためピグメントを転輪にまぶす。凹みに溜まるようにするのがポイント。筆にピグメントを絡めて少しずつのせるとこぼれなくて済む。



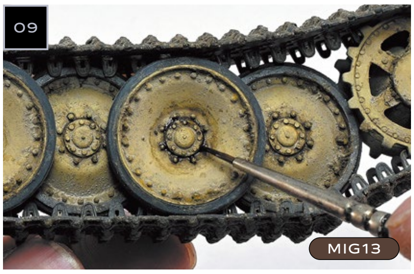
▲Mr.ウェザリングカラー専用うすめ液をスポイトで少量垂らす。転輪を水平にしておかないと片方に粉が溜まってしまうので注意。余分な粉は擦って落とす。



▲転輪にもう少し土のボリュームが欲しいと感じたのでペーストにピグメントを混ぜてパサパサした泥の塊を作り、転輪の溜まりそうな場所に塗り付けた。



▲ペースト乾燥後、さらにピンウォッシュを追加して深みを出す。使う塗料が暗すぎると下地の土汚れが台無しになるので入れ過ぎに注意しよう。



▲グリスのシミを描き入れて仕上げる。MIG13燃料＆オイルはツヤありだがピグメント下地ではその効果が出にくい。塗料を塗り重ねていけば徐々にツヤ感が増す。

WWII ドイツ軍 西部戦線用 ■MIG01 ダークウォッシュ ■MIG02 ダークストリークグレイム ■MIG03 ドライマッド ■MIG04 ヨーロッパダスト

標準セット ■MIG13 燃料 & オイル ■MIG14 アース＆グレイム ■MIG15 チッピング ■MIG16 ラスト

▲MIG01をモールドの陰に流して別パーツ感を強調する。サスペンション可動部にMIG13でグリスの滲みを追加してツヤを加えると効果が高まる。

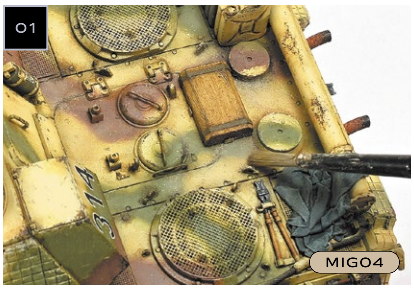
▲Mr.ウェザリングカラー専用うすめ液で溶いたピグメントを塗っていく。濃すぎると筆目が付くので注意。土の質感再現と色付けが同時にできて一石二鳥だ。

▲MIG01をモールドの陰に流して別パーツ感を強調する。サスペンション可動部にMIG13でグリスの滲みを追加してツヤを加えると効果が高まる。

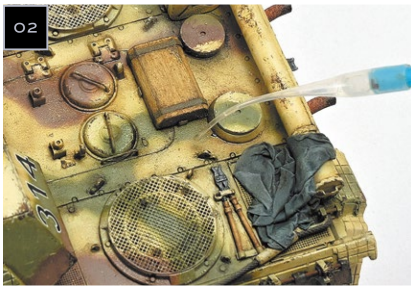
Essential knowledge　and skills of using　Mr.Weathering Color

埃汚れには油染みが映える

戦車を運用すれば必ずオイル汚れがつく。給油やメンテナンス時にこぼしたり跳ねたりして付くこの汚れは戦車兵には嫌な存在だ。しかし模型的に見ればディテールを浮き立て汚れに変化が付き、色味も増えるためとにかく重宝する。



▲オイル汚れの下地の状態はツヤ消しがベスト。先にピグメントで埃汚れを付けてオイル汚れが映えるようにしておくことが大切。MIG04を車体上面に載せる。



▲専用うすめ液を少量垂らしてピグメントを定着させる。モールドの隅にピグメントが溜まるようにすると実感が増す。乾燥後、細筆でボカして修正する。

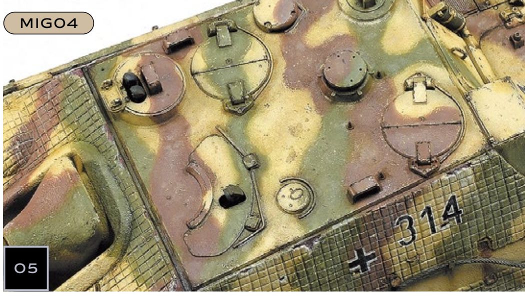
さらに変化を付けるなら

▲1色のピグメントだけでなく、さらに明るい色で変化を付けても効果的。ここではMr.ウェザリングカラーのホワイトダストを少量追加した。

▲MIG13は濃い目に調整されているので用途に応じてうすめ液で希釈して使用。油汚れのテカリを足して生きている車両の様子を演出する。

▲給油口周辺の汚れは恰好の見せ場になる。MIG13を塗ってからうすめ液で周囲をボカして馴染ませる。下地のピグメントの効果でじんわりと塗料が拡がる。

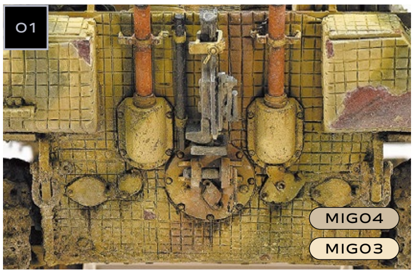
▼車体天面にも同じくピグメントで汚しを加えるが車体よりも控えめに行なう。



Essential knowledge　and skills of using　Mr.Weathering Color

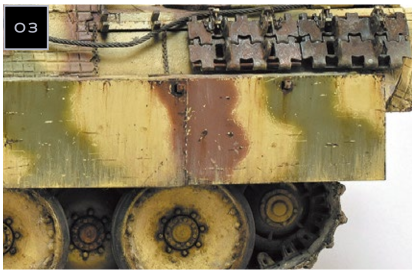
雨垂れと埃垂れ

ウェザリングの最後は車体下部の汚れの整理だ。当てはまらない例もあるが、よく汚れる足周りと程々に汚れる車体下部。これらの汚れをチグハグにさせないよう馴染ませるのがこの工程だ。全体を見て、汚れを足し引きし仕上げよう。



▲ペーストで泥の下地を作ってから、うすめ液で希釈したMIG04を筆で塗布。筆に付けた同じ塗料（濃いめ）を飛ばして泥ハネを再現する。

▲埃汚れが雨で流れた様子を細筆で描き入れていく。うすめ液で希釈したMIG04を使用。後方に行くほど埃の量を増やしてゆくとリアル。



▲うすめ液で希釈したピグメントは完全に定着しないもで、擦り落として修正を行なう。GSIクレオスから発売されている先細の綿棒を使うと便利。

WWII ドイツ軍 西部戦線用　■MIG01 ダークウォッシュ　■MIG02 ダークストリークグレイム　■MIG03 ドライマッド　■MIG04 ヨーロッパダスト
標準セット　■MIG13 燃料 & オイル　■MIG14 アース&グレイム　■MIG15 チッピング　■MIG16 ラスト

ISBN978-4-499-23404-7 C0076 ¥3600E

定価（本体3,600円＋税）

9784499234047

1920076036002

Essential knowledge and skills of using

Mr.WEATHERING COLOR

知っておきたい

Mr.ウェザリングカラーの使いかた